

【教育目標 げんきいっぱい えがおいっぱい いきいき表現する子ども】



きらきら

新潟市立沼垂幼稚園
園だより
令和4年9月28日発行

やりたいことは子どもが決める

園長 青木博子

園庭にグラウンドのトラックを意識した楕円のラインが引かれていました。始めに園庭に出てきた年長児が、あっという間に青と白の2チームに分かれてリレーを始めました。リングバトンを持って走り、次の友達へバトンを渡すと、列の一番後ろに並びます。リレーと言っても、何度も走ってバトンを渡すことを繰り返し、勝敗は決めません。年長児は元々遊戯室でリレーを楽しんでいました。今日リレーをやるかどうか、ルールも、子どもが決めます。そこには、担任の指示や提案はありません。



その後、年少児が園庭に出てきて、興味津々で年長児を見つめます。「入れて」と伝えると、年長児がすぐに年少児をチームに入れました。年少児もバトンを持って走ることを楽しみました。さらに、年中児が園庭に出てきました。消防ごっこの誘導で使っていた棒を、バトン代わりに持っています。年長組のリレーに入るのかと見ていましたら、同じトラックを使って、年長組と別な場所にバトンゾーンを決めて、そこで年中組だけでリレーを始めました。担任が「年長さんに入れてもらう？」と尋ねたところ「ここでやるからいい」と話したそうです。自分たちの力でやってみようとする姿です。

疲れたら、チームから離れて休み、また戻ります。のどが渇けば、チームから離れて水を飲みに行き、また戻ります。驚いたのは、年長児は年中児が前を走っていると余裕を持ってよけてあげることです。さらに、年少児が突然入ってきても、自分がよけたり、コースを譲ってあげたりします。その反応の速さと年下の子への思いやりは本当に見事で、思わず拍手をしたくなるほどでした。

先日、隣の沼垂小学校でマラソン大会がありました。次々に駆け抜けていくお兄さんお姉さんの姿を園庭から憧れのまなざしで見つめ、大声援を送っていました。その姿に刺激され、マラソン観戦の後には、一段とかけっこやリレーに熱が入り、年少児、年中児、年長児、それぞれが交錯しながら楽しんでいました。小学校のあこがれのお兄さんお姉さんがすぐ隣で輝く姿を見せてくれることが、園児たちの意欲を高めました。自分になりたいモデルに近づこうとすることが、子どもたちの力を伸ばします。

当園の運動会では、何をするかは教師が決めるものではありません。日頃から子どもが身体を動かして楽しく遊んだ遊びなど、日常の園での遊びや学びがそのまま更新される中で、「運動会の日」になり、いつも通り、自分たちのやりたいことを自分たちで決めたり、課題を解決したりしていきます。そして、自分たちでやり遂げて、満足感を持つのです。

当園では、やりたいと思うことを自分で決め、その実現に向けて取り組むことを大切にしてきました。その姿をまさに体現する子どもたちの様子が、園庭で輝いて見えました。